

ふりがな 氏名	ひらよし ひろこ 平芳 裕子				
職名	教授	所属	人間発達環境学研究科 人間発達専攻表現系教育研究分野	専任・兼任 の別	専任
略 歴					
学 歴	年月	事 項			
	1991年 3月	光塩女子学院高等科 卒業			
	1991年 4月	東京藝術大学 美術学部 芸術学科 入学			
	1995年 3月	東京藝術大学 美術学部 芸術学科 卒業			
	1995年 4月	東京大学大学院 総合文化研究科 表象文化論専攻修士課程 入学			
	1997年 3月	東京大学大学院 総合文化研究科 表象文化論専攻修士課程 修了			
	1997年 4月	東京大学大学院 総合文化研究科 超域文化科学専攻博士課程 進学			
2003年 3月	東京大学大学院 総合文化研究科 超域文化科学専攻博士課程 単位取得退学				
職 歴	年月	事 項			
	1999年10月	武蔵野美術大学 造形学部非常勤講師(2000年3月31日迄)			
	2001年10月	大阪学院短期大学 国際文化学科 非常勤講師(2004年3月31日迄)			
	2003年 4月	神戸大学 発達科学部 講師 採用			
	2006年 3月	神戸大学大学院 総合人間科学研究科 担当			
	2007年 4月	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 講師 配置換 発達科学部併任			
2011年 5月	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 准教授				
学 位	年月	事 項			
	2018年 3月	博士(学術)(神戸大学)			

著書及び学術論文等目録

I. 著書

<単著>

1. まなざしの装置—ファッションと近代アメリカ
青土社 2018. 9
283p.
2. 東大ファッション論集中講義
筑摩書房 2024. 9
256p.
3. 日本ファッションの150年—明治から現代へ—
吉川弘文館 2024. 10
288p.

<分担執筆>

1. 20世紀美術
京都造形芸術大学通信教育 1999. 4
部
小林昌廣・木下長宏編
「マティス論 現代の夜明け—アンリ・マティス [赤いアトリエ]」
pp. 176-187
2. 表象のディスクール・身体—皮膚の修辞学
東京大学出版会 2000. 10
小林康夫・松浦寿輝編
pp. 199-222
「抵抗する衣服, あるいは未熟な身体—コム・デ・ギャルソンのセク
シュアリティ」
3. ファッション・ブランド・ベスト101
新書館 2001. 11
深井晃子編
pp. 148, 168-170, 186,
198
「バレンシアガ」
「プラダ/ミュウミュウ」
「ミッソーニ」
「ランバン」
4. 現代芸術論
武蔵野美術大学出版局 2002. 4
藤枝晃雄編
pp. 106-121
「身体の裁縫術—ファッションと性」
5. キーワード 人間と発達
大学教育出版 2005. 4
神戸大学発達科学部編集委員会編
pp. 200-201
「表象 (Representation)—ファッションへのまなざし」
6. 人間像の発明
ドメス出版 2006. 10
ヒューマン・コミュニティ創成研究センター (神戸大学) 編
pp. 149-177
「着飾りたい人間—ファッションをめぐる欲望とは」
7. キーワード 人間と発達 増補改訂版
大学教育出版 2007. 4
神戸大学発達科学部編集委員会編
pp. 200-201
「表象 (Representation)—ファッションへのまなざし」
8. 相対性コムデギャルソン論
フィルムアート社 2012. 12
西谷真理子編
pp. 156-167
「性差を突きつける/突き破る—コムデギャルソンと近代ファッ
ションシステム」
9. 西洋近代の都市と芸術1 ローマ
図書文化 2009. 10
佐藤直樹編

- 「ファッションとローマーアングルはローマで何を描いたか」
10. 転生するモード
日本記号学会編
「ファッション誌の技法—イメージ/ことば/設計図」
新曜社
pp. 23-36
2019. 3
 11. 新修神戸市史
新修神戸市史編集委員会編
「神戸の衣生活とファッション文化の歴史」
神戸市
pp. 378-427
2020. 3
 12. 現代手芸考
上羽陽子・山崎明子編
「近代アメリカ女性に見る針仕事と階級の関わり」
フィルムアート社
pp. 175-178
2020. 9
 13. 美学の事典
美学会編
「芸術とファッションの融合—これは衣服なのか、アートなのか」
丸善出版
pp. 348-349
2020. 12
 14. クリティカル・ワード ファッションスタディーズ
蘆田裕史・藤嶋陽子・宮脇千絵編
「メディア」
フィルムアート社
pp. 41-53
2022. 3
 15. 「歴史総合」をつむぐ—新しい歴史実践へのいざない
歴史学研究会編
「ファッションの歴史」
東京大学出版会
pp. 121-128
2022. 4
 16. 交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー
千葉真智子・廣田理紗編
「シャネルの近代-ファッションをめぐる機能と装飾」
赤々舎
pp. 254-258
2022. 7
 17. 現代の皮膚感覚を探る—言葉、表象、身体
平芳幸浩編
「シームレスの美学 ファッションと皮膚感覚」
春風社
pp. 109-134
2023. 3
 18. 服の、先へ。ファッションヒストリー編（上）
成実弘至監修
「アメリカのメディアと既制服」
「アメリカのファッションデザイン運動」
ブックエンド
pp. 42-45, 78-81
2023. 9
 19. ジェンダー事典
松本悠子他編
「ファッション・服飾」
丸善出版
pp. 524-525
2024. 1
 20. 服の、先へ。ファッションヒストリー編（下）
成実弘至監修
「アメリカン・フィフティーズ」
ブックエンド
pp. 148-151
2024. 3
 21. ファッションヒストリー 1850-2020
成実弘至監修
「アメリカのメディアと既制服」
「アメリカのファッションデザイン運動」
「アメリカン・フィフティーズ」
ブックエンド
pp. 42-45, 78-81, 148-151
2024. 6

II. 学術論文

<学位論文>

1. 近代アメリカのメディアに見る表象としてのファッションと女性—雑誌・パターン・ディスプレイ
博士学位論文
神戸大学
2018. 3

<査読付論文>

- | | | |
|--|---|----------|
| 1. モードの力学—20世紀モード史を巡る言説とその機能—
(平芳裕子) | 服飾美学第30号
pp. 1-16 | 2000. 3 |
| 2. 名称としてのシャネル・スーツ—アメリカにおけるシャネル需要—
(平芳裕子) | 服飾美学第36号
pp. 48-64 pp. 379-391 | 2003. 3 |
| 3. ファッション—まなざしの装置—
(平芳裕子) | 服飾美学第39号
pp. 37-54 | 2004. 9 |
| 4. フィラデルフィア・ファッション—『レディズ・ブック』における良き女性の表象—
(平芳裕子) | 服飾美学第47号
pp. 55-72 | 2008. 9 |
| 5. 正統なるファッションとは—『ゴードイズ・レディズ・ブック』のファッション・プレートをめぐる言説—
(平芳裕子) | 美学第235号
pp. 84-97 | 2009. 12 |
| 6. ファッション史の相対化の試み—『ゴードイズ・レディズ・ブック』を手がかりに—
(平芳裕子) | 神戸大学人間発達環境学
研究科研究紀要第3巻第2号
pp. 87-94 | 2010. 3 |
| 7. 19世紀アメリカにおける女性と装飾—『ゴードイズ・レディズ・ブック』を通じての考察—
(平芳裕子) | デザイン理論第56号
pp. 45-58 | 2010. 5 |
| 8. 19世半ばのイギリスにおける「お針子」の表象
(平芳裕子) | 神戸大学人間発達環境学
研究科研究紀要第5巻第1号
pp. 75-83 | 2011. 9 |
| 9. 「縫う女性」の表象—『ゴードイズ・レディズ・ブック』を手がかりに—
(平芳裕子) | 美学第242号
pp. 44-166 | 2013. 6 |
| 10. 女工、お針子、家庭裁縫—19世紀アメリカのファッション文化における女性—
(平芳裕子) | 神戸大学人間発達環境学
研究科研究紀要第7巻第1号
pp. 43-50 | 2013. 9 |
| 11. 学内博物館実習を活用したサービスラーニングの試みと成果—神戸大学発達科学部の実験的な取り組み—
(津田英二, 岸本吉弘, 白杉直子, 平芳裕子, 勅使河原君江, 高見泰興, 内林加奈, 柴田美帆, 金澤咲) | 日本教育大学協会研究年報 vol. 33
pp. 87-99 | 2015. 3 |
| 12. パターンによる流行受容—初期『ハーバース・バザー』の重要性
(平芳裕子) | デザイン理論第68号
pp. 21-34 | 2016. 7 |
| 13. モデルに倣う—ファッションにおけるパターンの出現
(平芳裕子) | 表象11
pp. 254-269 | 2017. 4 |
| 14. The Representation of Sewing Women in Godey's Lady's Book
(H. Hirayoshi) | Aesthetics No. 20
pp. 50-61 | 2017. 7 |
| 15. 田中薫と民俗衣服—地理学から衣服学へ
(平芳裕子) | 服飾美学第68号
pp. 1-18 | 2022. 3 |
| 16. ファッション展と民族衣装—20世紀前半のアメリカのミュージアムを | art/民族藝術学会誌 | 2024. 3 |

中心に
(平芳裕子) pp. 32-45

<査読なし論文>

1. Get Real—モードにおけるその可能性—
(平芳裕子) 美術フォーラム21第12号 2005. 9
pp. 73-77
2. ファッションを語る—雑誌とアメリカ—
(平芳裕子) Vanitas No. 3 2014. 6
pp. 86-96
3. 近代アメリカ女性の服作り—針仕事・パターン・通信教育—
(平芳裕子) Fashion Talks… No. 6 2017. 10
pp. 2-11
4. 神戸大学に見る衣服史の諸相—師範学校・教育学部・発達科
学部から国際人間科学部へ— 2017. 8
(平芳裕子) 神戸大学人間発達環境学研
究科研究紀要
第10巻第2号
pp. 211-219
5. ファッションとコスチュームのあいだ—ソフィア・コッポラ
の『ピガイルド』から眺める— 2018. 3
(平芳裕子) ユリイカ No. 719
pp. 85-92
6. シャネルスーツはなぜ女性解放のシンボルとなったのか
(平芳裕子) ユリイカ No. 776 2021. 6
pp. 93-98
7. 鷲田清一以降の「ファッション学」
(平芳裕子) 現代思想 vol. 51-5 2023. 4
pp. 199-210

Ⅲ. 訳書

<共編・共監訳>

1. ファッションセオリー ヴァレリー・スティール著作集
平芳裕子・蘆田裕史(共編・監訳) アダチプレス 2025. 6
五十棲宣・鈴木彩希・工藤源也(訳)

<単訳>

1. “What’s an Icon of Style”時代を彩るファッション
名古屋ボストン美術館 2012. 3
87p.

<共訳>

1. 問いかけるファッション—身体・イメージ・日本
成実弘至編 2001. 5
「ファッション言説の精神分析—ファッションと女性主体」
(カジャ・シルヴァーマン著) pp. 130-146
2. 肖像が語るアメリカ史—スミソニアン・ナショナル・ポート
レート・ギャラリー所蔵作品による 2001. 8
国立西洋美術館
pp. 38-59, 120-149
・論文
「画家、パトロン、そして移り変わるアメリカの肖像画
1865年—1999年」
(キャロリン・キンダー・カー著)
・作品解説
「ナサニエル・ホーソーン」

- 「進歩的な人々」
「オレスティーズ・ブラウンソン」
「ウィリアム・T・シャーマン」
「イーディズ・ウォートン」
「ジェムズ・マクニール・ホイッスラー」
「フィリップ・H・シェリダン」
「フランシス・ミリット」
「メアリー・カサット」
「ブレット・ハート」
「トーマス・B・クラーク」
「H・H・リチャードソン」
「ジュリエット・ゴードン・ロウ」
「タルコット・ウィリアムズ」
「ヘンリー・カボット・ロッジ」
3. 6+ アントワープ・ファッション リュディオン 2009. 4
高木陽子・東京オペラシティアートギャラリー編 pp. 19-30
「アントワープ・ファッションとは何か」
(キャシー・ホリン著)
4. ファッションと哲学 フィルムアート社 2018. 12
ロカモラ&スメリク編、蘆田裕史監訳
pp. 208-233
「記号学とファッションの修辭学的コード」
(ポール・ジョブリング著)

IV. その他

<評論>

1. 19世紀アメリカ女性にとってのラグジュアリーとは何か 2010. 1
(平芳裕子) 視る(京都国立近代美術館
ニュース)
2009年3-4月号
2. メタモルフォーゼとしてのファッション 2012. 5
(平芳裕子) 表象文化論学会ニューズレ
ター REPRE Vol. 15
3. 服は語られることでファッションとなる 2012. 12
(平芳裕子) ダイアナ・ヴリーランド
「伝説のファッションスタ」
映画パンフレット
4. ハイヒールの意義は? 2016. 3
(平芳裕子) 日本医事新報4796
pp. 60-61
5. 糸と女一紡がれる物語 2016. 10
(平芳裕子) 月刊みんぱく10月号
pp. 18-19
6. 服のパターン、手芸のパターン 2018. 1
(平芳裕子) 月刊みんぱく1月号
pp. 18-19
7. バーバー『女の仕事』―「見えない」歴史から衣服をたどる 2024. 5
(平芳裕子) 現代思想vol. 52-5
pp. 138-142

<展評>

1. 変幻自在、進化するFINAL HOME 2003. 3
(平芳裕子) 美術手帖2003年4月号
p. 182

- | | | | |
|----|---|-----------------------------------|----------|
| 2. | 展覧会構成の妙、「構成された布切れ展」
(平芳裕子) | 美術手帖2003年4月号
p. 183 | 2003. 3 |
| 3. | モダンの枠組みの中で言説化されるファッション
(平芳裕子) | 美術手帖2004年7月号
pp. 220-221 | 2004. 6 |
| 4. | 境界のファッション展
(平芳裕子) | Fashion Talks…No. 7
pp. 18-19 | 2018. 4 |
| 5. | 出来事としてのファッション：クリスチャン・ディオール、
夢のクリュリエ展
(平芳裕子) | Fashion Talks…No. 15
pp. 26-27 | 2023. 10 |

<新刊紹介>

- | | | | |
|----|---|--------------------------|----------|
| 1. | 深井晃子『ファッションから名画を読む』
PHP新書 2009年
(平芳裕子) | 表象文化論学会ニューズ
レターNo. 8 | 2009. 3 |
| 2. | 蘆田裕史監訳『ファッションと哲学』
フィルムアート社 2018年
(平芳裕子) | 表象文化論学会ニューズ
レターNo. 36 | 2019. 6 |
| 3. | 平芳幸浩『現代の皮膚感覚をさぐる』
春風社 2023年
(平芳裕子) | 表象文化論学会ニューズ
レターNo. 49 | 2023. 10 |

<解説>

- | | | | |
|----|---|--|---------|
| 1. | パリからアメリカへ—控えめに装う女性たち—
(平芳裕子) | 『パリジェンヌ展』図録 (世田
谷美術館)
p. 64 | 2007. 6 |
| 2. | 合わせ鏡を使った写真の流行について
(平芳裕子) | 『百年の泉—便器が芸術になる
とき』 (平芳幸浩・京都国立
近代美術館編)
p. 95 | 2018. 4 |
| 3. | ブックガイド—平芳裕子『まなざしの装置—ファッションと
近代アメリカ—』
(平芳裕子) | 表象13
p. 212 | 2019. 4 |
| 4. | 「皮膚感覚と情動—表象から現在のテクノロジーへ—」
ブックガイド
(平芳裕子) | 表象18
p. 103 | 2024. 6 |

<討議録>

- | | | | |
|----|--|-----------------------------|---------|
| 1. | 共同討議「ファッション批評は可能か？」
(平芳裕子, 蘆田裕史, 牧口千夏, 三浦哲哉, 門林岳史) | 表象13
pp. 14-46 | 2019. 4 |
| 2. | 鼎談「ココ・シャネルの神話化とファッションの距離」
(平芳裕子, 井上雅人, 蘆田裕史) | ユリイカ no. 776
pp. 115-124 | 2021. 6 |
| 3. | シンポジウム「皮膚感覚と情動：メディア研究の最前線」
(飯田麻結, 平芳裕子, 渡邊恵太, 水野勝仁, 高村峰生, 難波阿丹) | 表象18
pp. 16-48 | 2024. 6 |

<報告書>

- | | | |
|---------------------------------------|---|---------|
| 1. 『ゴージャス・レディズ・ブック』における良き女性とファッションの表象 | 平成18-21年度科学研究費
補助金 若手研究(B) 研究成果
報告書 | 2010. 3 |
| 2. ファッション文化史から見る「お針子」の表象 | 平成22-24年度科学研究費
補助金 若手研究(B) 研究成果
報告書 | 2012. 3 |
| 3. メディア表象における「アメリカン・ファッションの生成過程研究 | 平成25-27年度科学研究費
補助金 基盤研究(C) 研究成果
報告書 | 2015. 3 |

<随筆>

- | | | |
|---------------------|------------------------|---------|
| 1. 日常の切れ端
(平芳裕子) | 群像79(5)
pp. 404-405 | 2024. 5 |
|---------------------|------------------------|---------|

V. 学会発表

<講演>

- | | | |
|--|--|----------|
| 1. 学会特別企画 | | |
| (1) ファッション—身体の成形加工
(平芳裕子) | プラスチック成形加工学会
第18回秋季大会「成形加工シンポジア'09」 | 2010. 11 |
| (2) ラグジュアリーブランドとファストファッション
(平芳裕子) | 繊維学会
第34回「感性研究フォーラム」 | 2010. 12 |
| (3) 針仕事のポエティック—なぜ服は物語を紡ぐのか—
(平芳裕子) | 藝術学関連学会連合
第10回公開シンポジウム「日常のポエティックス」 | 2015. 6 |
| (4) ファッション誌の技法—イメージ・ことば・設計図—
(平芳裕子) | 日本記号学会大会
第37回「モードの終焉？」 | 2017. 5 |
| (5) なぜいまだファッション研究+批評は困難なのか?
(平芳裕子) | 表象文化論学会
第13回大会シンポジウム「ファッション批評は可能か？」 | 2018. 7 |
| (6) ファッション展と民族衣装—20世紀前半のアメリカのミュージアムを中心に—
(平芳裕子) | 民族藝術学会
シンポジウム「ミュージアムと民族衣装」 | 2023. 4 |
| (7) 衣服は第二の皮膚なのか?
(平芳裕子) | 表象文化論学会
2023研究フォーラムシンポジウム「皮膚感覚と情動：メディア研究の最前線」 | |
| 2. 美術館企画 | | |
| (1) シャネルリズムとは何か
(平芳裕子) | 神戸ファッション美術館服飾文化セミナー | 2017. 5 |
| (2) ファッションをめぐる身振り—近代アメリカの衣服と規範—
(平芳裕子) | 京都国立近代美術館シンポジウム「ドレスコード?—それぞれのファッション学の視点から」 | 2019. 8 |

3. その他

- (1) 「ファッションと表現」
(平芳裕子) 第9回発達科学部国際シンポジウム『人間発達の可能性 ヒト・人間・社会』分科会6「人間の表現行為とは何か」 2013. 12
- (2) 「シャネルの近代—ファッションをめぐる装飾と機能—」
(平芳裕子) Fashion Studies オンライン講座 2022. 8

<口頭発表>

1. モードの性—方法論としてのゴルチェ、ウエストウッド、川久保—
(平芳裕子) 日仏美術学会 第74回例会 1997. 7
2. 名としてのシャネル・スーツ—シャネルのアメリカ受容を中心に—
(平芳裕子) 服飾美学会 平成14年度大会 2002. 5
3. ファッション・プレートは何のために—1837年から1847年の『ゴードイズ・レディズ・ブック』における正当化の言説—
(平芳裕子) 服飾美学会 平成20年度大会 2008. 5
4. 「縫う女性」の表象—『ゴードイズ・レディズ・ブック』を手がかりに—
(平芳裕子) 美学会 第63回全国大会 2012. 12
5. 二つの針仕事—刺繍か裁縫か女性か—
(平芳裕子) 現代「手芸」文化に関する研究（国立民族学博物館共同研究） 2015. 11
6. パターンによる流行受容—初期『ハーパース・バザー』の重要性
(平芳裕子) 意匠学会 第224回研究例会 2015. 11
7. モデルに倣う—ファッションにおけるパターンの出現
(平芳裕子) 表象文化論学会 第10回研究発表集会 2015. 11
8. アメリカの裁縫／刺繍文化と女性
(平芳裕子) 「近代日本の手作りとジェンダー」第5回研究会 2016. 3
9. 針と女性—教養か賃金か家事か—
(平芳裕子) 現代「手芸」文化に関する研究（国立民族学博物館共同研究） 2018. 1
10. 田中薫と民俗衣服—地理学から衣服学へ
(平芳裕子) 服飾美学会 令和3年度大会 2021. 6
11. 距離を克服する—近代アメリカのファッション・メディア
(平芳裕子) 糸・布・衣の循環史研究会 ワークショップ 「ファッションが産業になる：フランス、アメリカ、日本、ソ連、イタリアの過去とインドネシアの現在」 2022. 10

<シンポジウム主催>

1. ファッション研究/ファッション教育のポジション
「ファッションスタディーズの樹立に向けた日本的課題解決のための挑戦的研究」
ファッション研究フォーラム（オンライン，2023年11月17日）
2. ファッション展とキュレーションの現在
「ミュージアムにおけるファッション展の日本的展開のための総合研究」
シンポジウム（京都国立近代美術館，2024年11月4日）